

子供等を日光に浴させよ

櫻楓會託兒所 丸山千代子

お寒い冬がまゐりました。私は相變らず寒風に顔をさらしながら、巢鴨宮下と日暮里とある二ヶ所の櫻楓會託兒所を、あちこちとかけまわつて、子供等の相手になり、にこ／＼と楽しい生活を致して居ります。

巢鴨宮下の方の託兒所は、大正三年にかしこくも照憲皇太后の葬場殿の御材木を御下賜になつたので建築されてありますから、建物は實に立派で、託兒所等にあのやうな材木を用ひてゐるのも、勿體ない事と思はれます。小さい子供等は、何の考へもなく、その上をどん／＼とかけ廻つて遊んで居ります。今託兒所が到るところに起り、最も缺くべからざる社會設備となりましたも、かしこい邊りで意を御向けになつて居られるからだ、まことに有難く存じて居ります。

この邊では、工場に通ふ人々の住家があるところとは云へ、もう殆んどよい状態に導かれて居ります

ので、他の貧民窟に見るやうな餘りみぢめな様には見えません。子供も五十人ほど來て居りまして、先づ相當に効果をあげて居りますので、新たに此處に女子櫻楓夜學校を設立し、十一月十五日から授業して居ります。

女子櫻楓夜學校は設立したいと希望してから、やつと昨年の秋開校する事になりましたので、私共は嬉しさに胸をおどらして居ります。私共のやうに子供に接して居ります者にとつて、未來の國民を善良にする上には、現在の子供を教育することゝ、現在の少女を未來のよい母に教育する事にある、といふ事をつくづく感じます。私共の託兒所でも子供は教育して居りますが、是等の子供等の姉達は、女中となり、女工となつて、生活の爲めに仔々として働き、教育をうける機會のないのを見て居ります。

是等の小さい少女らもいづれは嫁して母となるでせうに、婦人として母としての教育が充分でないの

を見る時に、非常に氣の毒に感じました。これらの理由のもとに、この夜學校は設立されたのでございます。

女子でさへあれば年齢には制限なしに入學を許す事にし、月謝は五十錢としました。尋常小學校を卒業してゐるものは本科へ、即ち高等女學校程度へ、卒業してゐないものは普通科へ、非常に多忙な少女達は學科を選んで勉強する爲に選科へと致しました。毎夜七時から九時半まで授業があつて、日常訓、國語、算術(球算及び筆算)、裁縫、家事(衣食住、看護、經濟、衛生、育兒)、英語、音樂(唱歌)、圖畫、習字等、大抵の科目は致します。卒業年限は二ケ年として、卒業證書はよい嫁入道具にしたいものと考へて居ります。

巢鴨宮下の方はこのやうにして次第によい方に向つて行きますが、日暮里の方は一昨年設立されてまだ年月も浅い上に、日暮里の貧民窟は實にその名の通りで、私共の託兒所も子供の教養以上に、周圍を改善する事に實に骨が折れます。此處の託兒所に通つて來る子供は六十人位でありまして、こちらは巢鴨宮下のやうに材木は上等でありませんが、庭がひ

ろくて、其れだけが取柄でございます。

お父様、お母様が揃つてゐて、リボンをかけ、洋服を召して、おともづきで幼稚園に通ふ坊ちゃん嬢ちゃん、家庭には窓から日がきら／＼とさす溫室のやうな子供室にゐて遊んで居られる坊ちゃん嬢ちゃん、此處にすむ子供等と同じ年齢であり子供であることを思ふと、さう云ふ幸福なお子様方はいつまでも幸福があるやうにと思ふと同時に、此處にゐて子供らにもその幸福の萬分の一でもいゝから受けさせたいと、涙ながらに祈りたくなります。

或る時の事でございました、御晝の御辨當の時間に、「先生、わたしの御辨當の中に紙がはいつてゐました。」と云つて、お辨當を私のところ迄持ち來た子供がありました。不思議だと思つてその紙を取り出して見ると、父親から遺書で、「自分は今まで獨りでこの子を育てゝゐたが、不景氣で工場から追ひ出され、自分は暮しに困るから、遠い所へ旅立つてしまふ、どうぞこの子をよろしく願ふ」と云ふやうな事が、拙い筆で涙ながらに書いてありました。私は驚いて警察にも申し出ましたが、警察ではこんな男は自殺の恐れがあるからとて、非常に探したやうでした

が、行衛が不明であつたので、この子は孤兒院へ送りました。

又これは近頃のことですが、近所に日本メソヂスト派の愛憐團と云つて幼稚園や社會事業をしてゐる所がございしますが、朝早く印半纏に泥足で子供を抱いて「一寸この子をあづかつて下さい、直ぐ迎ひに來ますから」と赤んぼを置いて行きましたが、いつまでたつてもその男は來ず、いよ／＼捨兒ときまり、私共もいろ／＼手傳つて警察の方へ頼みましたところ、その男のお主婦さんは他にいゝ男をこしらへて子供を棄てゝ逃げたので、男は夢中になつて探しに出たのだと知れました。こんな事實を以て見ても、この邊の慘めな状態がよく御解りになるだらうと思ひます。

日暮里の襪樓倉、三疊長屋等は實際にその名の通りでございします。市内から集つて來た襪樓はお主婦さん達の手にそろへられ倉につみこまれ、ぬけ毛は山のやうに此處へ集つて來てそれもそろへられてゐます。その綿や紙屑や襪樓や髪の毛が、ぼろ／＼としてゐる中に、子供は生れて來て育つて居るのでございします。まるで鼠の生活のやうでございします。

それに三河臺とくつゝいて居ますので、昔から云はれてゐる癩病村の癩病人も、それらしいのがぞろぞろ歩いて居ります。お主婦さん達は、紙屑でも髪の毛でも仕事をしてゐるのはまだ有福ですが、向上心がなくなつたのかどうか、子供をいぢめては、二人よつてべちや／＼と話し暮してゐるのや、病氣になつて三疊間の隅へころがてゐるのや、實に實にお話になりません。

これからは寒い雪が降り、道はぬかつてなか／＼乾はかず、仕事はなくなり、生活に費用が入るやうになります。「可愛いさうな子供らに、せめてもお日様に日向ぼっこさせてやりたい、」と大聲を出して叫びたくなります。府の新住宅が出來て少しはよくくなりましたが、それは極く一部分で、日暮里、三河臺の貧民窟は實に廣く續いてゐます。「子供等に日向ぼっこさせたい」、といふのが、冬を迎へる度に、胸にわく希望でございします。